

学校名 豊島区立千早小学校  
校長名 市川 こずえ

学校の教育目標	
①よく考え実行する子 ②思いやりのある子 ③元気な子	
<b>学力に関する目指す児童像</b>	
1年 よく聞き、考え、取り組む子 2年 話をよく聞き、やりぬく子 3年 話をよく聞き、最後までやりぬく子 4年 話をよく聞き、すすんで行動する子 5年 よく考え、自ら学ぶ子 6年 学びを生かし、よく考え、すすんで行動する子	
授業改善推進プランの全体像	
確かな学力の定着と豊かな個性を伸長する教育の推進	
すべての教科において「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」になっているかという視点から、授業改善をすすめる。実際の社会や生活に生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」をバランスよく育む。	
としまっこの学びをふまえて下記の点に留意して学校全体で問題解決型の授業をすすめていく。	
項目	内容と教科との関連
めあて／課題の提示	児童の日常生活と結び付く具体的な課題や目標を明示し、学習の意義や必要性を実感できるようにする。
まとめと振り返りの時間の設定	授業の最後に学びを振り返る時間を設け、児童が自分の考えや学びを整理・自己評価し、次回への意欲を高める。

## 令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

## I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
<b>日本語の特質を理解し、適切に使用する力</b> <b>論理的に考える力、豊かに感じる力、想像する力</b> <b>言語を通じて伝え合う力</b>		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタートカリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育の差が大きい。</li> <li>・運筆が苦手な児童が多い。</li> <li>・声に出して読むことが好きな子が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①15分程度に活動を短く設定し、活動内容を変える。</li> <li>②書くときや立つときなど、動きや場を変えていく。</li> <li>③遊びを取り入れながら、鉛筆の持ち方を学んだり、意欲を引き出したりしていく。</li> </ul>
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力に差がある。</li> <li>・表現力が乏しく、具体的な内容や理由付けまで書ける児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①音読を授業の中に意識的に取り入れていく。語彙力強化のため、音読の方法を工夫する。</li> <li>②読書や読み聞かせの時間を確保する。</li> <li>③言葉調べや別の言葉で言い換えると、どんな言葉になるか考えさせる活動を増やす。</li> </ul>
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力と理解力の個人差が大きいように感じる。</li> <li>・積み重ねによる習熟度が低く、語彙も少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習のゴールを設定し、毎時間・何を学習するのか、めあてを意識して学習する。</li> <li>②書くときの定型文やパターンを決めて、どの児童でも抵抗なく書く活動に取り組めるようにする。</li> <li>③読書や読み聞かせ、言葉調べの時間を確保する。</li> </ul>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識技能の得点が低い。区調査では文章の読み取りの分野で区平均より低い傾向が見られる。</li> <li>・自分の考えを順序だてて文章にして伝えることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字の習熟はミニテスト、タブレットを活用して定期的に行い、定着を図る。語彙力はスピーチや、読み取りワークシートなどを活用して、読解力をつけていく。</li> <li>②短い文をつなげて文章を書くよう指導する。書いた文章を互いに読み合い、より良い書き方にについて主体的に学び合えるようにする。</li> </ul>

## 2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
<b>社会的事象の特色や相互の関連についての理解</b>		
<b>社会的な見方・考え方を働かせ、多角的に考察する力</b>		
<b>社会参画の態度</b>		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料からの必要な情報の読み取りについては、それぞれの課題や児童に応じた指導が必要である。</li> <li>資料から読み取ったことや生活経験から、自分の考えをもつことが難しい。</li> </ul>	<p>①児童が関心・意欲を高めて、学習に取り組めるよう、単元前半の学習問題作りで、資料吟味・提示方法を工夫する。</p> <p>②児童が十分に調べたり考えたりする時間を確保し、児童が主体的に学びに向かう習慣を育成する。</p>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的、基本的な知識が不足している。</li> <li>資料の読み取りが苦手である</li> <li>答えを先に求める傾向が強く、得た知識を社会的事象に結び付けて考える力が十分に育っていない。</li> </ul>	<p>①視覚的な資料を用いて、興味関心を高め、知識を身に付けられるようにする。</p> <p>②調べる活動では、複数の資料を準備し、比較したり、関連付けたりして考えられるようにする。自分の考えはどの資料で根拠付けられるのかを意識した問いかけを行い、資料活用能力を高める。</p>

## 3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
<b>数学的な見方・考え方を働かせ、論理的に考察する力</b>		
<b>数学的に表現・処理する力</b>		
<b>問題解決の過程を振り返り、より良い方法を見いだす態度</b>		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタートカリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語力に影響を受けて、内容を理解できていない。</li> </ul>	<p>①具体物を用いて、操作的な活動を多く取り入れていく。また、実物投影機等を活用し、操作の手本を示す。</p>
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識、技能の差が思考力にも大きく影響している。</li> <li>数量感覚が身に付いていない。</li> </ul>	<p>①知識、技能はタブレットやプリントを活用して、反復していく。</p> <p>②数量感覚については、具体物を触って感覚を身に付ける。</p>
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着に個人差が大きく、前学年までの内容が十分に身に付いていない児童が見られる。</li> <li>授業やワークテストにおいて、自分の考えを図や言葉などで説明することに課題がある。</li> </ul>	<p>①個に応じた計算問題を繰り返し解き、基礎学力の向上を図る。</p> <p>②「問題・自分の考え・友達の考え・まとめ・ふりかえり」と授業の流れを継続する。</p>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>区調査の結果から基礎学力の定着ができない児童が見られる。</li> <li>正確に作図することが苦手である。</li> </ul>	<p>①計算問題を繰り返し解く時間を設定し、ぐんぐんタイムなどの基礎学力の向上を図る。</p> <p>②作図では正確に描けるように授業時間内でチェックする時間を設ける。</p>

## 4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
<b>自然の事物・現象についての理解</b>		
<b>観察・実験などを行う技能</b>		
<b>科学的に探究する力、科学的な態度</b>		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察や実験は楽しんで行ったり、興味をもって取り組んだりはできるようになっているが、そこから予想をしたり、考えたりしたことを表現するのにはまだ難しい。</li> <li>自分の考えを文章にまとめることが難しいため、発言した内容を教師が記録し、段階的に書き表す力を育てる支援が必要である。</li> </ul>	<p>①予想の段階で、今までの経験や出来事などを想起しやすいように声をかけていく。また、そういう内容で予想が立てられている児童のノートを掲示するなど考えを共有していく。</p> <p>②結果と考察が結び付けられるよう、考察を言語化する活動を個人、集団で繰り返し行っていく。</p>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が予想する根拠を説明することができない。</li> <li>実験を「楽しい活動」として捉えるだけでなく、その結果について自分なりに考察する習慣を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<p>①実験に際して、既にもっている知識や経験から結果の予想をする活動を確保し、見通しをもって考える時間を重視する。</p> <p>②得られた実験や観察の結果から、どんなことが言えるのか自分なりに考える時間を確保する。</p>

## 5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
社会事象、自然事象、自分自身に関する基礎的な理解と技能 比較、分類、関連付け、視点の変更などを通じて対象を捉える力 身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動する態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・視覚的に分かりやすいように工夫したが、個人差が大きく、人手不足を感じる。	①授業で作成した掲示物は、保管し。次年度に引き継いで使用する
低	・地域の自然や人々に关心をもっている児童が多いが、実際に地域とかかわる経験が不足している児童も見られる。 ・活動を通して感じたこと、考えたことを周りの友達に適切に伝えることを苦手としている。	①ゲストティーチャーやフィールドワークを通して、体験を増やしていく。 ②自分が興味関心をもったことを表現する方法を知り、身に付けていく。振り返りの活動を意識的に取り入れていく。

## 6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽の構造理解、表現技能 音楽表現の工夫、鑑賞力 音楽への愛好心、感性、豊かな情操		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・楽しんで、明るく元気に歌を歌っている。 ・鍵盤ハーモニカの奏法が身についていない児童がいる。	①常にタンギングを意識できるように声掛けし、演奏する前に階音でうたい、運指の確認をする。 ②演奏が苦手な子は、ゆっくり一緒に確認する時間を作ったり、個別で音の出し方を確認してあげたりする時間を作る。
中	・声量があり、曲の山や歌詞の感じを意識して歌うことができている。 ・リコーダーの低音、高音の音が裏返ってしまう児童がいる。 ・班で音楽を作り上げるのが難しい児童がいる。	①リコーダーで、高音での指づかい、低音での息づかいを意識できるように声掛けし、重点的に練習する。 ②班で話し合ってより良い音楽を作ろうとする意識が弱い児童がいるため、慣れていくように、班での活動を継続して取り入れていく。
高	・合奏や、自分の演奏したい楽器の練習は意欲的に取り組む。 ・楽器の音色に気を配り、自ら個人の技量を高めようとする児童が少なく感じる。	①苦手な楽器でも取り組みやすいように、選曲したり、グループ練習を取り入れたりする。 ②合奏では、音色や音のバランスに気を付けて演奏できるように、友達同士聴きあった音楽について感想を伝え、改善していくように声掛けをする。

## 7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
造形的な見方・考え方を働かせ、創造的に発想や構想をする力		
表現の技能、鑑賞する力		
豊かな情操		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や工作に関心があり、楽しんで制作に取り組む児童が多い。</li> <li>・短時間に完成し、作品に対する気持ちが浅く終わってしまう児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①児童が互いの作品を鑑賞し合い、多くの作品を通して様々な表現を知る機会をつくる。</li> <li>②自分と友人の作品を見比べ、それぞれの作品の表現の違いを知りその作品の良さを考えてみる。</li> </ul>
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作意欲があり、積極的に造形活動に取り組む児童が多い。</li> <li>・自分の考えや好みが狭い範囲で終わってしまい、表現の幅を広げて行く気持ちが弱い児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教科書や作品集などの参考作品を提示し、より多くの表現に触れる機会を作る。</li> <li>②児童それぞれの制作進度に注意し、制作進度に差が出ないようにするとともに他の児童の作品にも目を向けさせるようにする。</li> </ul>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの課題に対して自分なりの考えや工夫をしようとする児童も多いが、表現方法にこだわり過ぎるあまり制作に時間がかかる児童もある。</li> <li>・新しい表現に関心がある児童と全く無い児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①表現方法を開拓していく中で、あまり難しいものに挑戦すると完成に結び付かないことがあるため、分かりやすいアドバイスを行う。</li> <li>②鑑賞の授業でクラスの児童の前で作品の発表をし合い、自分の表現を知ってもらうと同時に他の児童の表現を知り、新しい表現を知る機会を多くつくる。</li> </ul>

## 8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能		
生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想する力		
主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造する態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識・技能の定着に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①調理や裁縫などの基礎的な技能を定着させるために、デジタル教科書や実物投影機など ICT 機器を活用し、一つ一つの手順を正確に理解させる。</li> </ul>

## 9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
運動の特性に応じた技能 健康の保持増進についての理解 運動に親しむ態度、健康な生活を実践する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体の動かし方や運動範囲への理解が十分でなく、良い姿勢を保つことに苦手意識をもつ児童が多い。</li> <li>・友達と一緒に協力し、仲良く運動に取り組む経験が少ない。</li> </ul>	<p>①ストレッチを取り入れ、ボールなどを使った運動やいろいろな動きを取り入れ、経験を増やすことができるようとする。</p> <p>②小グループで協力したり、学び合ったりできる場を設定し、友達と一緒に活動する楽しさを味わわせる。</p>
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きのバリエーションが少なく、体をどう動かしていいか分からぬ児童が多い。</li> <li>・技能の低さが目立つ。</li> </ul>	<p>①すすんで体を動かしていきたいと思えるような、活動を取り入れていく。</p> <p>②ICT や児童同士の学び合いを通して、自分がどう動いているかを捉えさせる。個々の課題に応じた場の設定を工夫する。</p>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の基本的な動かし方が未熟に感じる。</li> <li>・運動の特性に応じた課題についての理解が十分ではない。</li> </ul>	<p>①学習資料や映像、ICT などを活用し、運動が苦手な児童でも集中して取り組めるようなルールの工夫や場の設定をよく吟味した授業作りを行う。</p> <p>②学習カードを活用し、運動の特性に応じた課題を設定して動きや技能を身に付けられるようにする。最善を尽くして運動をしたり、練習を工夫したりする中で、体を動かすことの楽しさを十分に味わえるようにする。</p>

## 10 英語活動・外国語活動・外国語科

目標す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
英語の音声、文字、語彙、表現の基礎的な知識		
コミュニケーションを図る基礎的な力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・ゲーム的な活動を通して、楽しく英語に触れることができている。	①ALTとの連携を図り、アクティビティをたくさん取り入れながら、楽しみながら学ぶことができるよう支援していく。 ②歌やチャンツをALTと歌って英語に親しむ。
中	・英語活動に積極的な児童とそうでない児童の差がある。 ・様々な活動に触れ、体で英語を感じながら意欲を引き続き高めていく。	①ALTとの連携を図り、アクティビティをたくさん取り入れながら、楽しみながら学ぶことができるよう支援していく。 ②歌やチャンツをALTと歌って英語の単語やフレーズに慣れ親しむ。学級担任とALTとのデモンストレーションを参考にしてインタビューなどの活動を行う。
高	・習熟度の個人差が大きい。 ・書く活動への苦手意識が強い。	①グループワーク・ペアワークなど多様な学習活動を取り入れ学習に変化をもたせながらコミュニケーション活動を増やす。 ②アルファベットを書いたり学習した単語を写したり読んだりし、文字に親しめる INPUT の機会を増やす。

## II 特別の教科 道徳

## 目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力

## 道徳的価値観の理解

## 自己を見つめ、多面的に考え、自己の生き方を深める力

## 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開前段での意見は活発に出ても、展開後段で、自己の振り返りを行う際、自分の経験を想起することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①道徳的価値に合った、日頃の児童の様子を教員が記録し、提示することで、思考を促す。</li> <li>②授業の導入で内容項目に関係する発言を促し、振り返りの際に、その発言につなげて考えさせることで、自分事として捉えられるようにしていく。</li> </ul>
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値項目によっては、自分事として考えることが難しく、イメージを膨らませて意見を表現する力に課題がある。</li> <li>・考えを深める力に個人差が大きく、役割演技や動作化などの活動でも、児童の主体的な意見や多様な考えにつながりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「じっくり考える時間」を取り入れていく。</li> <li>②発達段階や時期に応じた教材を選ぶことで、児童が自分のこととして捉えられるようにしていく。</li> </ul>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを表現することが十分ではない。</li> <li>・自分の考えをもち議論することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分の意見を発表できなくても、タブレットで振り返りを入力するなど、意見を伝える場を確保する。</li> <li>②中心発問、振り返る場面において個々で考える時間を確保する。その後友達の考えを聴き、考えたことを伝え合う時間もとる。</li> </ul>

## I 2 総合的な学習の時間

## 目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力

## 探究的学習に必要な知識・技能

## 課題解決力、情報処理能力

## 主体的・協働的態度、社会参画意識

学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集したものを整理・分析してポスターや新聞等に表現する際は意欲的に取り組むことができている。</li> <li>・児童が実社会や実生活から問い合わせや課題を見付けることが難しく、教師が主導になって課題を設定することが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①児童の興味関心を引き出せるような発問・教材提示を行い、できる限り児童が主体となった問い合わせや課題設定を行っていく。</li> <li>②情報収集したものをまとめる様々な方法を提示しそのなかから自分の目的にあった方法を選択できるようにし、主体的な学びを目指す。</li> </ul>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット上の多量な情報から自分に必要な情報を取捨選択することが苦手な児童が多い。</li> <li>・課題を追究する力やそれをまとめて表現する力の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①情報収集やまとめ作業の途中で、児童が互いに情報や意見を交換し合う場面を設けることで、自分の活動を見直せるようにする。</li> <li>②発表を見合う中で、感じたことや考えたことを明確にし、学習を深める。</li> </ul>

## I 3 特別活動

目標す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
人間関係形成：協働力、コミュニケーション能力		
社会参画：自治的能力、積極的な社会参画力		
自己実現：自己理解、自己肯定感		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団への意識が十分でなく、自分本位な行動や意見にとどまる児童も見られる。</li> <li>・話し合い活動に積極的に参加する力をさらに伸ばす必要がある。</li> </ul>	<p>①学級会等で合意形成や意思決定を図ることができたときには、振り返りで称賛し価値付けていく。実践を積み重ねていくことを通して、集団のよさを感じる経験を増やしていく。</p> <p>②学級会の方法については、区小研からの資料を活用し、校内で情報共有などを含め、研修する体制を整えていく。</p>
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少数派の意見について、深く話し合うことが少なく、多数決になることが多い。</li> <li>・話し合いにすすんで参加する意欲を高めていく必要がある。</li> </ul>	<p>①何のための話し合いなのかを意識させ、めあてに立ち返られるようにする。</p> <p>②実践を積み重ねていくことを通して、集団のよさを感じる経験を増やしていく。</p>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団への意識が低く、自己中心的な考え方になる傾向が見られる。</li> <li>・話し合いにすすんで参加する意欲を高めていく必要がある。</li> </ul>	<p>①実践を積み重ねていくことを通して、集団のよさを感じる経験を増やしていく。</p> <p>②学級会の方法については、区小研からの資料を活用して校内で情報共有を行うなど、研修体制を整えていく。</p>

## I 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民ひろば千早と交流が密にできている。</li> <li>・副籍交流を行う予定である。</li> <li>・語り部部会による読み聞かせや畠部による生活科のサポートができた。</li> </ul>	<p>①今何が必要なのかを考え、適した人材を探していく。</p>
中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民ひろば千早の語り部部会による読み聞かせを実施する。</li> </ul>	<p>①今後さらに地域の人材を活用していく。</p>
高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生は、能代市の交流校に対して、日光移動教室をスライドにまとめ、紹介する予定である。</li> </ul>	<p>①能代市との交流に関しては、ICT機器やアカウント数の違いによる問題がある。</p> <p>②交流校と相談しながら進めていく。</p>